

桶狭間合戦伝説 その①



今行かん
電光石火の
奇襲策
篝火のごとく
燃え立つ闘志



伝



信長絶体絶命のピンチ

天も味方した奇襲攻撃

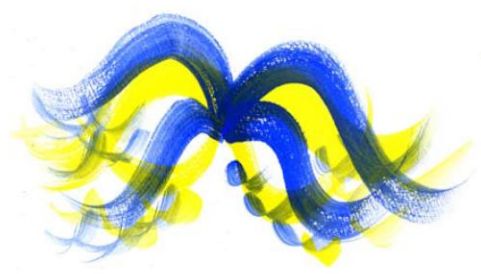
時は1560年5月19日早朝、信長軍の丸根・鷲津両營が義元軍の攻撃に落ちたとの報告が清洲城の信長の元に届きます。信長にとって絶体絶命のピンチ。信長は直ちに出陣の準備をし、熱田の宮まで一気に駆け抜けました。そこで武將たちと合流し、軍勢は善照寺砦に集結。これは義元方の鳴海城に対抗して信長が築いた砦です。ちょうどその頃、信長方の前軍が義元方の前軍と衝突し大敗となり、まるで信長の前途を暗示するような不吉な予感ともいえるものでしたが、天は信長に味方することになります。

一方、義元は19日朝、沓掛を出発し、大高城へと向かいます。しかし、この日は稀にみる曇りのため義元軍の行動は鈍く、途中、桶狭間の地に休息することになりました。ちょうど昼頃になって、昼食どき。丸根・鷲津両營で大勝したこともあって、義元は上機嫌。付近の農民からの酒肴の差し入れもあり、酒盛り気分が続き、気が緩んでいました。

義元軍休息中との報告を受けた信長は、一気に奇襲



をかける勝負に出ます。奇襲を成功させるために善照寺砦に本隊が駐留しているように見せかけるよう工作して、兵達を秘かに移動させ、義元の本陣を見下ろすことのできる位置に到着。この時、急に空が曇り、激しい雷雨となります。ほどなくして風雨も止み、信長は義元の本陣めざして突入。義元は、信長軍の服部小平太春安、毛利新介良勝の両者に討たれ、信長の奇襲攻撃は見事に成功したのです。



パリスとヘレネの恋から

トロイア10年戦争へ

ギリシャ神話で戦争といえば、トロイア戦争が有名。すべてはパリスとヘレネの恋の逃避行からはじまります。パリスは、トロイアのプリアモス王の王子で、カッサンドラーの兄。パリスは、王子でしたが、予言者に「この子はこの国を破滅させる」といわれ、捨てられました。牧人に育てられ家畜の世話をしながら暮らしていました。ある日、パリスの前に3人の美女が現れます。ゼウスの正妻ヘラ、美の女神・アフロディーテ、知恵の女神・アテナが、3人の中で誰が一番美しいかを決めてほしいということになりました。ヘラは「私を選んでくれたら地上で一番の支配者にしてあげる」と、アテナは「私を選んでくれたら地上で一番の知恵者にしてあげる」と、ア



▲義元軍が休憩したとされている義元本陣跡。

フロディーテは「私を選んでくれたら地上で一番の美女を妻にしてあげる」と言います。パリスはアフロディーテの美貌に心を奪われ、「あなたが一番です」と言っていました。

「一番の美女を妻に」という約束はなかなか実現されませんが、ある日プリアモス王が競技会を開くことになり、パリスは競技会に参加して順調に勝ち進み、勝利を収めます。その時、カッサンドラーがパリスを見て「この人は私たちの兄弟よ」と気づき、再会を喜びました。パリスは王宮に迎えられ、ギリシャに略奪されたプリアモス王の姉・ヘシオネを取り戻すために立ち上がり、

パリスはスパルタに乗り込みましたが、スパルタ王メネラオスはあいにく国を離れていました。しかし、ここがいかにか

も神話らしいのですが、スパルタ王妃・ヘレネと会うことになります。この運命的な出会いに2人は恋に落ち、パリスは「これがアフロディーテが約束した美女だ」と思い、ヘレネを抱き締め、スパルタから立ち去ったのです。それを知ったメネラオスは激怒し、トロイアに向かいます。プリアモス王は「ヘシオネを引き替えにヘレネを返そう」と条件を出しますが、交渉は決裂して、トロイア戦争のはじまりはじまり。時間が経過するにつれ、戦いが激化していきます。10年以上続いたトロイア戦争は、ギリシャ軍の勇将・オデュッセウスの提案により決行された有名な「トロイアの木馬」作戦が功を奏して、ギリシャ軍の勝利で幕を閉じることになります。

信長の奇襲攻撃が功を奏し、わずか2時間で決着した桶狭間合戦。10年以上続いてギリシャが勝利したのが、トロイア戦争です。(次号へつづく)



※次回は、今回の続編として桶狭間合戦伝説その②をお送りします。なぜ古戦場跡が2つあるかについての確明が楽しみです。お楽しみに。

■写真/Kiyoshi K ■イラスト/Rei ■取材文/Icanus